

芸西村事前復興まちづくりセミナー



村ホームページより

令和8年9月30日（水）14：00～ 芸西村村民会館（大ホール）

事前復興まちづくりセミナーを開催します

村では、南海トラフ地震などの大規模災害に備え、住まいや道路などの復旧・復興をどのように進めるか、平常時から計画しておく「事前復興まちづくり計画」の策定に取り組んでいます。

今回は、講師を招いて、これからのまちづくりについて一緒に考える「事前復興まちづくりセミナー」を開催します。
ぜひお気軽にご参加ください。

【日時】 令和8年9月30日(水) 14:00～15:45
(開場:13:30)

【場所】 村民会館 大ホール

【内容】 事前復興まちづくりに関する講演

【講師】 角崎 巧
(高知工科大学 地域連携機構研究センター
統合減災マネジメント研究室 客員教授)

※後日録画したものを配信予定です。
参加者には防災グッズをプレゼント！

【お問合せ】 総務課 古井 ☎ 33-2111



みんなで考える
これからの芸西村

芸西村 事前復興まちづくり セミナーを開催します

大きな災害が起こる前に、芸西村の未来と一緒に考えてみませんか？

日 日時
令和8年9月30日(水) 14:00～15:45 (開場 13:30)

場 場所
村民会館 大ホール

話 内容
事前復興まちづくりに関する講演
※事前復興とは…災害が起こる前から、被害を受けた地域をどうやって立て直していくか。住民の生活再建をどうするのか。その目指すべき姿を、行政、住民、企業などで話し合い、計画を立てて進めることです。

講師 角崎 巧 氏
高知工科大学 地域連携機構研究センター
総合防災マネジメント研究室 客員教授

後日、録画したものを
配信予定です

参加者には
防災グッズをプレゼント！



お問い合わせ
総務課防災情報係 33-2111

お気軽にご参加ください

事前復興まちづくりセミナー 議事次第

開会

村長挨拶

講師紹介

セミナー

1. 事前復興に関する講演会・質疑応答

2. 今後の予定（計画策定まで）

閉 会（アンケート）



住み続けられる
まちづくりを

災害に対する強靱さ＝「災害に強いまちづくり」



令和8年 芸西村事前復興計画セミナー

これまでの地震災害から見えること
なぜ事前復興が必要なのか

土木学会 自治体における災害マネジメント研究小委員会
元 高知工科大学地域連携機構客員教授

工学博士 角崎 巧

目 次

- 1) 災いとは何？
- 2) 災害とは？
- 3) これまでの大規模災害から見たこと
- 4) これからの災害への対応
- 5) これから皆さんに考えてもらうことは
- 6) 最後に

1) 災い は何を意味する漢字？

古の人は、

全てを押し流す川の氾濫と
全てを焼き尽くす火事を恐れていた

氾は川の流れを表し、
火は火災を意味する象形文字

2)-1. 災害とは

- ①自然現象そのものではなく、**自然の強い動き**が、**人の暮らしや社会の弱い部分**にぶつかり、人の生活に障害を与える状態が災害。
- ②自然の大きな変化と人の暮らしが重なった時に起き、人が住む場所や社会の弱さで被害の大きさは変わる。
- ③自然の力に加えて**社会の脆さや備えの不足**が被害を大きくする。

2)-2. 災害と言われるものには

- ①**自然災害(地震以外は事前に予測可)**
地震、津波、台風豪雨、洪水、土砂災害、火山噴火、高潮、大雪、落雷など自然現象に起因するもの
- ②**人為的・技術的災害(予測不可能でも原因は特定可)**
火災、爆発、事故、大規模停電、化学物質漏洩、感染症など人間の活動に起因するもの
- ③**複合災害(大半は予測可)**
地震による津波と火災、台風と高潮、豪雨と土砂災害のように複数が連鎖して起こるもの

3). これまでの災害への対応は？

- ①**防災**:これまで「災い」として恐れ避けてきた、生命や財産を守るための河川や海岸の護岸等のハードの施設整備を主体とする対策には限界
- ②**減災**:財産を守るハードに加え、生命を守るためのソフト対策により、地域のコミュニティを主体として地域社会の崩壊を防ぎ存続する対策の導入
- ③**事前復興**:避けようのない大規模災害への事前の準備による被災後の一日も早い平常への復帰を図る地域の総合的な対策への転換

4)-1.阪神淡路や熊本地震と東日本大震災の違いは何？

(1)阪神淡路大地震や熊本地震は

- ①**内陸型**の直下の活断層による地震と地盤変動による局地的な災害で、人口の集中する都市部で発生
- ②被災市町村は、規模が大きく職員数も多く、戦後から**各種の都市整備の計画を策定**し、まちづくりに取り組んでおり、早急に既存の計画を修正し復興事業に着手。
- ③災害復旧は**現地での現状復旧が原則**で、新たな用地の取得を伴わない事業が大半であった。

(2)東日本大震災では、

- ①海溝型の地震・津波災害で地震と津波により広範囲の中小の地方自治体が被災した広域災害
- ②大部分の被災市町村は規模も小さく関係職員数が少なく、**職員や市町村役場も被災し機能を喪失**
- ③大部分の被災市町村が、**地震後に不慣れな**各種の計画策定に着手したため、事業着手までに時間を要した
- ④津波による再度被災を避けるため、移転を伴う復興となり、住民の合意形成や用地取得に時間がかかった
- ⑤戦後の伊勢湾台風や狩野川水害以降の施設整備による防災対策への過信が破綻し、**防災から減災へ転換する**

4)-2. 南海トラフ巨大地震はこれまでの地震災害と何が違うのか？

- (1)太平洋沿岸の大都市から市町村までの広範囲な地震津波災害で未体験の被災規模と数量から、近隣からの**迅速な支援が困難**。中小の市町村では本格的な救援や復旧・復興には時間がかかる。
- (2)このため**自ら事前に対策を準備し、被災時には事前の計画に基づく地域での緊急対応が必要に**
- (3)それが事前復興計画の策定です

4)-3. 今後の災害対策で欠かせないこと

(1)人口減少への対応

- ・過大な利用計画の回避
- ・不要不急な事業とインフラの見直し
- ・単独施設から複合施設への転換
- ・被災後の対応は、施設復旧から地域復興への転換を

(2)地域コミュニティの継続

- ・自治会や自主防活動の活性化
- ・地域で作る地区防災計画の策定と更新
- ・地域の持つ人材、資材、経験の活用
- ・継続した防災訓練

5) これから皆さんに考えてもらうことは

(1)東日本大震災の被災状況は？



(2)東日本の復興状況からは何が見える？

陸前高田市(市街地跡地の公園化と住宅と公共施設の高台移転)



気仙沼市(漁業施設区域の高築堤と住宅地の景観保全)



南三陸町の施設の現地復旧



東松島(野蒜)の高台移転と現地での嵩上げ復旧



女川町(住宅の高台移転と宅地の嵩上げ、海に見える街づくり)



石巻市(階段状嵩上げ移転地と内陸部区画整理地への移転)



5-2. 何故、同じように地震・津波で被災したのに 復旧・復興は異なったのか？

- 1)そこには地域毎に異なる地勢・歴史・これまでの暮らしと
住む人々の将来への思いの違い
 - 2)未曾有の未体験に際したリーダーの強い思いと決断
 - 3)事業規模と復興期間に対する住民との合意形成の期間
 - (1)復旧の目標を **L1**(既往の規模) or **L2**(1000年規模)とするかの選択
 - (2)沿岸部の防御施設は、**生活(景観や作業活動)**or**安全の確保(高台移転)**の選択
 - (3)事前の都市計画などの**計画の有無**による合意形成の長期化により人口流出
 - (4)被災住民は一日も早い復旧を要望し、行政側は全体の合意形成を重視し思いがすれ違い
- 参考；市町村の**財政規模と特定財源の有無の影響**
- ＊石巻市は製紙企業の城下町、女川町は原子力立地交付金、東松島市は
特定防衛施設周辺整備調整交付金

50年先の芸西のあるべき姿を想定し計画を

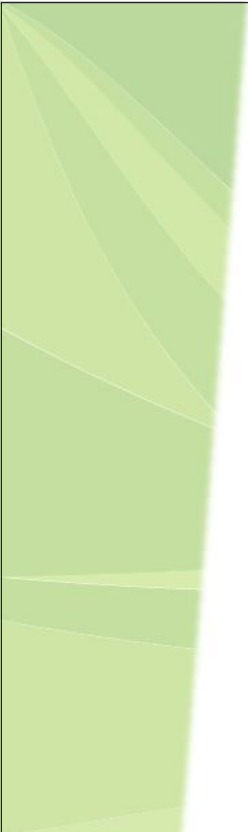
6. 最後に

寺田虎彦先生は、
「**災害は、忘れたころにやってくる**」
との名言を残されました。

私はその教えを守り
「**災害は忘れずにやってくる**」
「**常に備えを**」
を座右の銘としています。

ご清聴ありがとうございました。

土木学会 自治体における災害マネジメント研究小委員会
工学博士 角崎 巧



1. セミナーの質疑・応答

2.今後の予定

事前復興まちづくり計画の策定までのスケジュール

- 事前復興まちづくりセミナー開催(9/30)
- ▼ ①今年11月に**住民説明会（第1回）**開催予定
- ▼ ②来年1月に**住民アンケート**実施予定
- ▼ ③来年7月頃に**住民説明会（第2回）**開催予定
- **来年度末（令和10年3月）**に本計画を策定

事前復興まちづくり計画の策定

・ 東日本大震災の教訓から生まれた計画

地震発生

自治体職員の被災も想定されるなかで、
応急復旧対応や被災者支援などの膨大な業務に追われる。

事前復興計画が全くないと……

・復興計画の策定(住民合意形成)に長期間を要する。
→復興事業の着手が遅れる。

- ・住民や企業は疲弊し、再建する意欲を失う
- ・地域の活力が失われる
- ・早期再建のため村を離れ、避難先で定住

といったおそれがある。

27

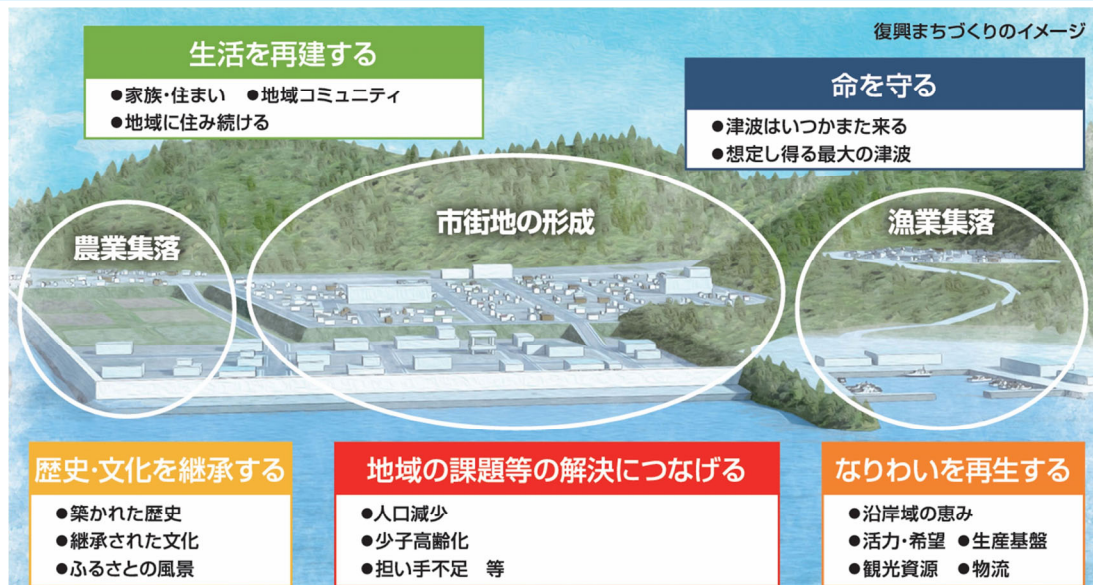
事前復興まちづくり計画の策定

・ 高知県策定指針（令和4年9月）沿岸19自治体向け

高知県事前復興まちづくり計画策定指針
〈概要版〉



令和4年9月
高知県危機管理課 南海トラフ地震対策課



28

事前復興まちづくり計画の策定

・高知県策定指針（令和8年3月）中山間地域向け

高知県中山間地域
事前復興まちづくり計画策定指針

令和8年3月
高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課



29

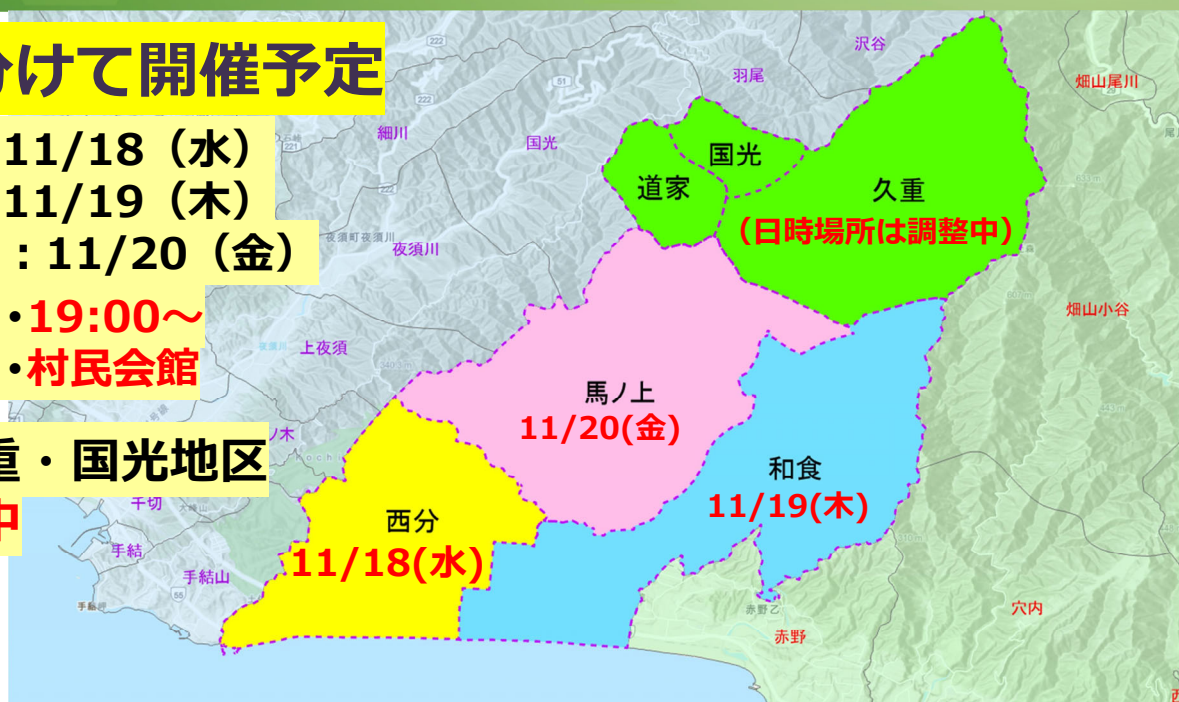
①住民説明会（ワークショップ）

4地区に分けて開催予定

- ・西分地区：11/18（水）
- ・和食地区：11/19（木）
- ・馬ノ上地区：11/20（金）

開始時間・・・19:00～
開催場所・・・村民会館

- ・道家・久重・国光地区
別途調整中



30

①住民説明会（ワークショップ）

説明会（ワークショップ）

参加者の復興への意向確認と合意形成のため

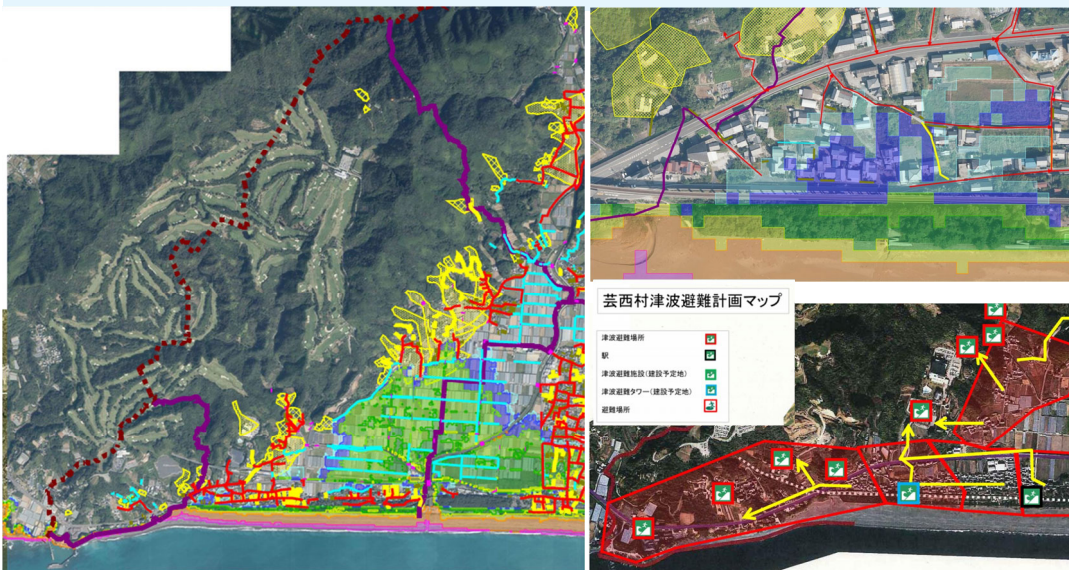
- ・ 事前復興まちづくり計画とは？
- ・ なぜ・何のために計画をつくるのか？
- ・ **災害リスク**の洗い出し、**地域の課題**などを話し合う
 - ▶ 自分・家族や自宅がどうなると思うか？
 - ▶ 営み（会社・勤務先、学校等）はどうなると思うか？
 - ▶ 被災後、復興に向けて（自分・地域は）どうしたいか？
- ・ 事前復興まちづくりのアンケート説明

31

①住民説明会（ワークショップ） 防災図面

住民が被災後の地区のあり方や将来を語り合うワークショップ開催

→防災マップや防災GIS情報をもとに、重要施設やハザード情報を共有→再認識
自宅や職場、よく行く場所のリスク、復興時の意向について話し合う



①西分地区の例 【災害リスク・地域の課題の確認】

- ・ 津浪？
- ・ 震度、液状化？
- ・ 土砂災害？
 - 土石流
 - 急傾斜
 - 地すべり
- ・ ため池氾濫？
- ・ 避難所？
- ・ 自宅はどうなる？
- ・ 復興のあり方は？
- など

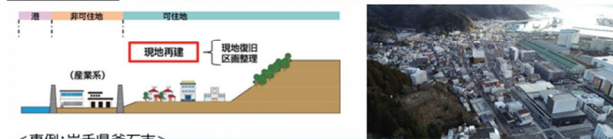
32

①住民説明会（ワークショップ）復興事例

東日本大震災における被災市街地復興の例

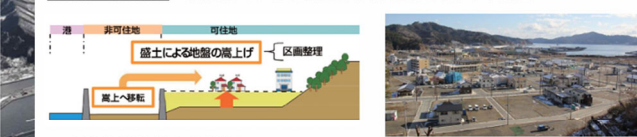
- 東日本大震災における市街地復興は、国および高知県により次の4パターンに大別して整理し検証されている。

①現地再建：堤防等により安全性を高め、現位置でまちを再建

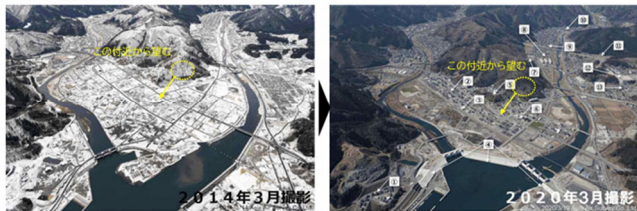


東日本大震災における被災市街地復興の例

②嵩上げ再建：被災前のまちを嵩上げし、安全性を高めて再建



<事例：岩手県大槌町 町方地区>



出典：東日本大震災による津波被害からの市街地復興事業検証委員会 とりまとめ(国土交通省)。空から見る復興(復興庁)、「タイムトリップ」町方地区(UK都市情報)

東日本大震災における被災市街地復興の例

③新市街地整備：高台等の安全な場所に、新しいまちを整備し、都市機能を移転

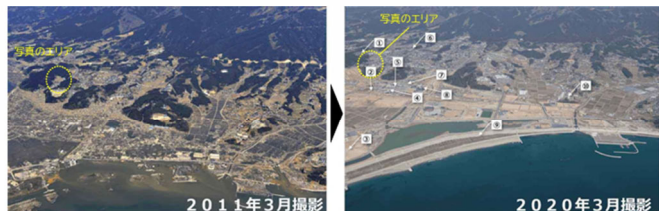


東日本大震災における被災市街地復興の例

④嵩上げ整備+新市街地整備：嵩上げに加え、一部は高台移転、現地再建等と組み合わせ



<事例：岩手県陸前高田市高田地区・今泉地区>



出典：国土交通省「東日本大震災による津波被害からの市街地復興事業検証委員会」第3回 復興部会報告資料(一部) 高田地区・今泉地区(国土交通省)。空から見る復興(復興庁)。

33

東日本大震災による津波被害からの市街地復興検証委員会資料より

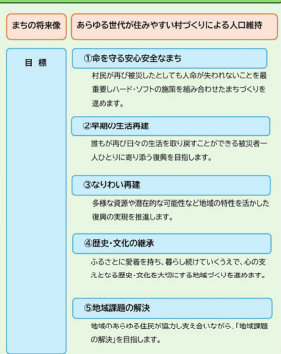
①②住民アンケート実施（事前復興について）

・南海トラフ巨大地震など災害発生時、自宅や職場環境はどうなるか、復興時にはどう対応するかなどをお聞きし、災害時の地域復興のあり方について、皆様に回答していただきます。

芸西村事前復興まちづくり計画に関する 村民アンケート調査

本アンケートは、芸西村の事前復興まちづくり計画において、村民の皆様のご意見をお聞きし、計画にしっかりと反映させるためのものです。
芸西村では現在、村の復興目標として、①命を守る安心安全なまち、②号機の生活再建、③なりわい(生業)再建、④歴史・文化の継承、⑤地域課題の解決の5つの目標を掲げた計画を策定中(策定後未定完成予定)です。

芸西村の復興基本方針



・次の頁のアンケートにご協力をお願いします。
・質問は、次の頁から全部で30問となっています。
・回答は、該当項目の□欄に、チェックをお願いします。
・Webにて回答をいただける場合は、右のQRコードから回答をお願いします。
・いずれも回答(紙アンケート回収)期限は2026年10月(日)(曜日)とします。

① 命を守る安心安全なまち についてお伺いします。

- 質問1 現在お住まいの自宅を中心とする災害について、下記の選択肢からあてはまるものを3つ以内で、お選びください。
- ☐ 地震(倒壊・破損) ☐ 津波 ☐ 浸水(濁・川・ため池等の氾濫) ☐ 土砂災害 ☐ 液化 ☐ その他()
- 質問2 昨年度、津波浸水区域の改訂がありました。津波に関して、あなたの現在の住居の自宅にあてはまるものを1つ、お選びください。
- ☐ 自宅は、津波の浸水想定区域内にある(と思う) ☐ 自宅は、津波の浸水想定区域内にない(と思う) ☐ 分からない

- 質問3 南海トラフ巨大地震発生時、現在お住まいの自宅に住み続けられと思いますか？あてはまるものを1つ、お選びください。
- ☐ 住めると思う ☐ 修理すれば住めると思う ☐ 住めないと思う ☐ 分からない

- 質問4 現在お住まいの建物リスクについてお聞きします。あてはまるものを1つ、お選びください。
- ☐ 昭和56(1981)年以前に建てた家であり、耐震改修等を実施していない ☐ 昭和56(1981)年以前に建てた家であるが、耐震改修等は実施済である ☐ 昭和56(1981)年以降に建てた家である ☐ 分からない

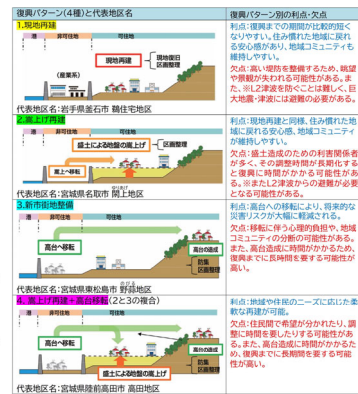
- 質問5 大規模災害が発生した場合、一時的に避難する場所を決めていますか？あてはまるものを1つ、お選びください。
- ☐ 決めている ☐ 決めている ☐ 避難場所がどこか分からない

- 質問6 二次避難場所(南海トラフ巨大地震発生後に長期の避難生活を過ごす場所)はどのようになっていますか？あてはまるものを1つ、お選びください。
- ☐ 避難所(体育館、公民館等) ☐ 福祉避難所(福祉施設) ☐ 家族・親せきの家 ☐ 宿泊施設(ホテル・旅館等) ☐ 知人・友人の家 ☐ 自家用車(車内) ☐ 自宅(別棟等) ☐ その他()

- 質問7 避難生活後の仮住まいについて、どのように想定されていますか？あてはまるものを1つ、お選びください。
- ☐ 現在の居住地の近く ☐ 芸西村内の別の地区 ☐ 高知県内(芸西村を除く) ☐ 高知県外

⑥ 地区の復興イメージ についてお伺いします。

- 質問20 高知県では、大規模災害発生後の復興について、東日本大震災の被災市町村が行った復興に伴う市街地整備の事例を基に、大きく4つのパターンに大別しています。南海トラフ巨大地震発生後、お住まいの地域の復興に向けて、どのような形のまちづくりを望ましいと考えますか？よりあてはまるものを1つ、お選びください。
- ☐ 1. 現地再建：今の場所、そのまま都市を復興 ☐ 2. 嵩上げ再建：今の場所を嵩上げて地盤を高くして復興 ☐ 3. 新市街地整備：高台や浸水区域外に都市を復興 ☐ 4. 嵩上げ再建+新市街地整備：2、3を組み合わせた復興 ☐ 5. 分からない



⑧ 最後に、「あなた自身」 についてお伺いします。

- 質問23 あなたの性別を教えてください。
- ☐ 男性 ☐ 女性 ☐ 答えたくない
- 質問24 あなたの年齢(年代)を教えてください。
- ☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代以上
- 質問25 あなたの世帯の家族構成を教えてください。
- ☐ 単身世帯 ☐ 未婚のみ ☐ 親子 ☐ 3世代家族 ☐ その他()
- 質問26 あなたの居住地を教えてください。
- ☐ 西分甲 ☐ 西分乙 ☐ 和賀甲 ☐ 和賀乙 ☐ 和賀丙 ☐ 馬ノ上 ☐ 久重 ☐ 道家 ☐ 国光
- 質問27 あなたの職業を教えてください。
- ☐ 会社員(正社員) ☐ 会社員(契約社員等) ☐ パート・アルバイト ☐ 農業関係 ☐ 漁業関係 ☐ 林業関係 ☐ 自営業 ☐ 公務員 ☐ 専業主婦 ☐ 学生 ☐ その他()
- 質問28 あなたの通勤・通学場所を教えてください。
- ☐ 村内(居住地と同じ地区内) ☐ 村内(居住地と同じ地区外) ☐ 村外(高知市) ☐ 村外(安芸市) ☐ 村外(芸西村・高知市・安芸市以外) ☐ 通勤・通学しない
- 質問29 現在の住居形態について教えてください。
- ☐ 一戸建て・持ち家 ☐ 一戸建て・借家 ☐ 集合住宅・借家 ☐ その他()
- 質問30 あなたの世帯の世帯収入額(年金含む年額)について教えてください。
- ☐ 0～200万円未満 ☐ 200万～400万円未満 ☐ 400万～600万円未満 ☐ 600万～800万円未満 ☐ 800万円以上 ☐ 答えたくない、わからない

アンケートの質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。

8

34

③住民説明会（来年度予定）

説明会（アンケート結果の報告・共有、地区の方向性確認）
参加者の復興への意向確認と合意形成のため

- ・ **事前復興アンケートの結果報告（村全体、地域別傾向）**
- ・ **地域の課題、災害リスクの再確認、地域で話し合い**
 - ▶ アンケート結果を踏まえて再度協議
 - ▶ 自分・家族や自宅がどうなると思うか？
 - ▶ 営み（会社・通勤先、通学先）はどうなると思うか？
 - ▶ 被災後、復興に向けて（自分・地域は）どうしたいか？
 - ▶ 地域別の復興の方向性を確認

35

（再掲）このように計画を策定してまいります。

- **事前復興まちづくりセミナー開催(9/30)**
- ▼ ① **今年11月頃に住民説明会（第1回）開催予定**
- ▼ ② **来年1月に住民アンケート実施予定**
- ▼ ③ **来年7月頃に住民説明会（第2回）開催予定**
- **来年度末（令和10年3月）に本計画を策定**

▼ ▼ ▼ **事前復興まちづくり計画の継続、防災・減災**

36

(最後に) アンケートにご協力ください

『事前復興まちづくりセミナー』に関するアンケート

令和8年9月30日(水)

日頃より芸西村の広報活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。本村では、来年度末の芸西村事前復興まちづくり計画の策定に向けて、取り組んでいます。本日の『事前復興まちづくりセミナー』に関するご意見、防災・減災対策へのご自身の取組み状況をお聞かせください。ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

※該当する箇所には○を記載してください。(例) ☒ はい ☐ いいえ

本アンケートは、スマートフォンなど Web で回答いただくこともできます。
右のQRコードを読み取り、回答ページにお進みください。



1. 本日の事前復興まちづくりセミナーに満足できましたか？(※○は1つ)

ア. 非常に満足 ☐ イ. 満足 ☐ ウ. 普通 ☐ エ. 不満 ☐ オ. 非常に不満 ☐

2. 本日の事前復興まちづくりセミナーはわかりやすかったですか？(※○は1つ)

ア. わかりやすかった ☐ イ. どちらともいえない ☐ ウ. わかりにくかった ☐

3. 災害時に最も心配していることは何ですか？(※○は1つ)

ア. 自身や家族の安全 ☐ イ. 住宅の被害(倒壊・停電) ☐ ウ. 食料・水・トイレの確保 ☐
エ. 医療支援の不足 ☐ オ. 情報不足(避難のタイミングや避難先が不明瞭) ☐
カ. その他() ☐

4. 災害時に避難する場所(指定避難所等)、自宅からの避難経路を把握していますか？(※○は1つ)

ア. よく理解している ☐ イ. 理解している ☐ ウ. あまり理解していない ☐ エ. 全く理解していない ☐

5. 非常時持ち出し品を準備していますか？(※○は1つ)

ア. 準備している ☐ イ. これから準備する ☐ ウ. 準備していない ☐ エ. 準備する予定なし ☐

6. 発生が不安な災害は何ですか？(複数回答可)

ア. 地震(津波) ☐ イ. 地震(家屋倒壊) ☐ ウ. 河川氾濫 ☐ エ. ため池氾濫 ☐
オ. 土砂災害(土石流) ☐ カ. 土砂災害(急傾斜地の崩壊) ☐ キ. 土砂災害(地すべり) ☐
ク. 高潮 ☐ ケ. (大規模)火災 ☐ コ. 停電や断水などのライフラインの停止 ☐
サ. その他() ☐

7. お住いの建築時期を教えてください(※○は1つ)

ア. 昭和56年(1981年)6月1日以降(新耐震基準) ☐
イ. 昭和56年(1981年)5月31日以前(旧耐震基準) ☐
ウ. わからない ☐

<裏面に続く>

8. 住いに感震ブレーカーを設置していますか？(※○は1つ)

ア. 設置している ☐ イ. 設置していない ☐ ウ. わからない ☐

9. 家具や家電の転倒防止対策等(突っ張り棒、転倒防止金具、ガラス飛散防止フィルムなど)をしていますか？(※○は1つ)

ア. 全て対策済 ☐ イ. 一部対策済 ☐ ウ. これから対策予定 ☐ エ. 対策を検討中 ☐
オ. 対策予定はない ☐

10. ご自身のことについてお伺いします。

①居住地(※○は1つ)

ア. 西分甲 ☐ イ. 西分乙 ☐ ウ. 和食甲 ☐ エ. 和食乙 ☐ オ. 馬ノ上 ☐
カ. 道家・国光・久重 ☐ キ. 芸西村外 ☐

②年 齢(※○は1つ)

ア. 20歳未満 ☐ イ. 20歳代 ☐ ウ. 30歳代 ☐ エ. 40歳代 ☐ オ. 50歳代 ☐ カ. 60歳代 ☐
キ. 70歳以上 ☐

③性 別(※○は1つ)

ア. 男性 ☐ イ. 女性 ☐ ウ. 答えたくない ☐

11. 災害等について、不安なことや詳しく知りたいこと、防災について分からないことなどがあれば、自由に記入してください。

自由記載欄

ご協力いただきまして、ありがとうございました。

本アンケートは入口受付にて回収しておりますので、よろしくお願いします。

ご清聴ありがとうございました。



<Memo>

[illegible]

<Memo>